

## パルシステム東京 震災復興支援基金「パル未来花基金」助成活動レポート

震災復興支援基金「パル未来花基金」の助成を受けて、復興支援活動に取り組みました。その取り組みについて、組合員の皆さんにご報告します。

グループ名	星つむぎの村
支援対象者・エリア	宮城県名取市閑上・石巻市大川小遺族会の皆様、宮城で被災し、関東地域にお住いの被災者とその家族
企画開催地	東京—宮城を中心にオンライン形式
企画名称	オンライン講演会
実施期間	2021年2月13日(土)、3月4日(木)

## 支援活動の目的・内容・感想

(どうしてこの活動をはじめたのか、どのようなことに取り組んだのか、取り組んだ感想など)

## &lt;今回の活動を始めたきっかけ&gt;

「2011年3月11日のあの日の夜空には、星が沢山見えきれいでした。それを見た人も見なかった人も一緒にもう一度観たい。」という閑上中遺族会の方の要望があり、移動式プラネタリウムと星に関する工作、観望会の道具を持って現地に行って実現させようというのが、活動の始まりでした。

内容としては、あの日の空をプラネタリウムでご覧頂き、少しでも前を向くきっかけ作りとなるお手伝いを行うこと、星空工作は帰宅された後も活動を思い出して頂く糧にすること、心の癒しとなる物を持ち帰ってもらうこと、観望会は実際に現地でのように星が見えるのかを知って頂き、私達が帰った後も星空を眺めてもらえるようにすること、そして様々な活動を通して、被災地の方と私達の心の交流を行い、「忘れません。ずっと寄り添い続けます。自分の住んでいる地域の皆さんに被災地の様子を伝えていきます。」という私達の信念を伝えられる活動と交流を行う事を目的として掲げました。

## &lt;取り組んだ内容&gt;

新型コロナウイルス感染拡大のため、①当初11月の実施予定では感染収束にならないだろうということで、実施可能が予想される翌年の2月に変更した。(被災地の方と実施日について再度調整。宿泊場所とレンタカーの取り直し。広報の延期)、②感染が猛威を振るったため、参加人数を減らしPCR検査(助成金外になった後、知人から寄付有り)を受けていくことを検討(感染予防策を行いながら実現できるか各所に連絡)、③東京都及び近隣県の緊急事態宣言が解除されない為、訪問が難しくなりオンライン講演会に変更。

(土曜の昼間と平日の夜の2回に分けて、なるべく参加可能な機会を増やし、ZOOMを使ってオンライン講演会を行った。講演の後には、参加者からの感想や意見を伝える交流会の時間を設け、参加者は各自東北の特産品を集めてオンラインに臨み、画面を通して東北に想いを馳せていることを講演者に伝えて、心の距離を縮める工夫を行った。

閑上中遺族会とは、公演前にZOOMでやり取りを行い、現地の方が何を望んで、何をしたくないのか把握することに努めた。その結果、オンライン講演当日は、話すことに集中したいとのことで、現地の方の負担にならないよう、閑上を想っている私達の心を伝えるものとして、閑上の景色の上に星空が広がり、3月11日の日に飛ばす予定の鳩風船が舞い上がり天の川を通して亡くなった方の元に想いが伝わることを願った星空工作を今回のオンラインに限り送ることにした。これをオンライン講演会当日に開けてもらい、閑上の方がたが感動されて事務局に飾ってくださり、その後多くの方の目に触れて、癒しになっているとのこと。またボックスプラネタリウムという別の星空工作とプラネタリウムの機械を送り(操作を事務局の方にして頂き)、講演会には出られなかった遺族会の方に密を避けて何回かに分けて投映を観てもらい、

参加した方に星に関する工作を実施して頂き持ち帰って頂いたのが好評だった。)  
 )と、その都度本当に実現できるのか現地や関係各所と連絡を取り、予算を立て直し、未来花基金に申請をして審議の結果を待つことの繰り返しで、仕事をしながら準備と協議を行ってきたので、今までで一番大変だった。

<取り組んだ感想>

今年度から slack を使用して復興応援のグループを作成し、どんな会にするのか、どんな星空工作を行うかについて意見を集め、ZOOM 会議を開いて、お互い離れたところに居ながらも画面で顔を見ながら意見交換が出来、距離を感じさせない良さを感じながら進めることが出来た。

講演会は、今まで復興応援に関心は持ちつつも、実際に東北に行くことは難しい方にも参加してもらうことが出来、オンラインならではの良さを活かすことが出来、今までより広く被災地の様子や心の痛みを伝えることが出来た。活動をしていく選択肢が広がったと感じている。

活動の様子 (写真など)

閑上の記憶の丹野さんの講演の様子



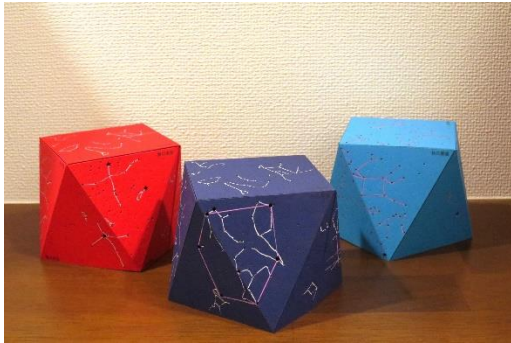
大川小リーフレットの一部分(資料として先に読んでから鈴木さんのお話を聴きました)



ステラボード：ライトを消した状態だと閑上から見た昼間の景色。ライトを点けると、冬の星座と夏の星座が浮かび上がる仕組み。夏の星座には、鳩風船も描かれ天の川を通して天に想いが届くようにというメッセージが込められている。



ボックスプラネタリウム：グループ内に星関係の作家の方がいらして、設計データを村内で公開しみんなでそれぞれに作成することが出来た。空き容器の周りに穴を開けたりデコレーションした紙を巻き付けた手作りプラネタリウムでの参加も可とした。



オンライン講演会の様子(最後にボックスプラネタリウム等を持ったところ 顔は伏せてあります)



講演会后、講演を聴いた参加者からの声を届ける交流会をする際に、本来だったら現地でお茶をしながら話をする雰囲気をオンラインでも作り出そうと、各自で近くのお店で買ったり、ネットで取り寄せたり、関上事務局からご好意で送ってくださった東北の特産品を画面越しに紹介し、心は東北に行ってますよというアピールをしました。これらは、交流会の最中や終わった後に各自で美味しく頂き改めて東北の皆さんを思い出す糧になりました。(写真は、左から石巻の笹かまぼこの取り寄せ(東京の方)、手作り萩の月(神戸の方)、名取地ビール、手作りずんだ、岩手ラーメン、白石温麺等(関上の記憶事務局から頂いたものと田中の手作り・購入))

